曹青通信

発行所
曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗青年会広報部
TEL 03-454-5411代

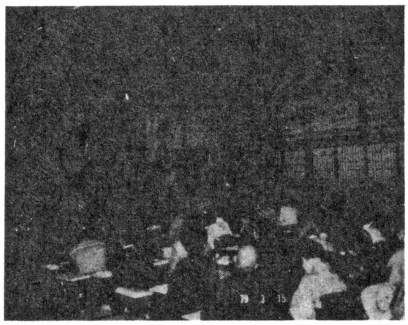
▽青年宗侶のエネルギーを結集しよう
▽社会的価値ある活動をしよう
▽青年宗侶の自覚を促そう
▽地域における活動の連携を深めよう

永平寺二祖国師大遠忌奉讃

禅文化学林盛会裡に終る

全国曹洞宗青年会の活動の中心的存在である「禅のつどい運動」は年々全国的にその広がりを見せているが、このほど大本山永平寺二祖国師七百回大遠忌奉讃として開催された＝禅のつどい中央結集・禅文化学林＝は、未だ残雪消えやらない大本山永平寺において、一二〇余名の参加者を集め、盛会のうちにその幕を閉じ、研修部門の予定された活動はこれをもって全て実施された。

去る三月一三日・一四日、一五日の三日間、大本山永平寺を会場として開かれた禅文化学林には、南は九州、北は東北から多数の参加者を集めて開かれた。青年会ではこれの実施の為に、菊池研修委員長をはじめ研修部委員を中心として禅文化学林実行委員会を組織して計画を策定、その準備にあたった。



当初、参加者数を吉祥閣禅堂の収容能力からみて七〇名としたが、〆切り間近くなって申込みが殺到、やむなく、青年会々員は別室とし、一般参加者のみで七〇名としたが、申込みは多くの参加者を三〇名を受付けし、参加者総数は最大時の一五日は一二九名に達した。さしもの吉祥閣大講堂も所狭しの感じであった。

この禅文化学林は、昨年度の大本山総持寺会場についで二回目の開催であるが、その内容は、各地の禅のつどい集大成という意味から、日程においては基本的には同じスタイルをとり、研修内容において変化を持たせ、深く、そして巾広いものをねらい、各地方のベテラン参加者へのアフターケーア的性格をねらったものであるという通り、その内容は地方の禅のつどいでは体験できないものであった。

まず第一の特色は、奈良康明大教授による、二日間にわたる「私の仏教概論」の講義。原始経典よりの引用を巧みにおりまぜながら、わかりやすく一つの仏教概論をつくりあげ、参加者に一本の柱をすえつけた。

第二の特色は、昨年の反省にもとづいて、「禅文化」的な分科会を二つにしぼったこと。石附周行大会前会長の「典座教訓と食作法」、有馬栄成本会常任講師の「仏像との対話」。スライド等を利用し、分科したことにより更に親密な研修となり参加者を魅了した。

第三の特色は、大本山での結集の成果ともいえる、楢崎一光後堂老師の提唱「随聞記にみる懐奘禅師」、七〇〇回大遠忌奉讃として、二祖国師のお徳を偲ぶものとして時宜にあったものであった。

その他、禅文化的なものとして行われた。会場はこの為に特に蔡焼の抹茶茶碗を一〇〇個用意し、大本山後堂老師、単頭老師、奈良講師の出席を得てなされた。昨年来の尼僧団の手ぎわのよいお手前が、行茶式を一層盛り上げていた。

山が山として、その姿を見せるとき、それは幾多の風雪に耐えている山としての静かなただずまいを見せる。私たちも人それなりに、人生の歩みの中で培われてきた人間像を見せている。

と、全国に呼びかけ、年度末になってようやく開催にこぎつけたという観がある第二回禅文化学林は、第三者から見ても、前回を上回る出来ばえであったという。しかし、指摘される点がないわけではない。坐禅の問題をもっととるべきだ、もっと厳しく食事内容がよすぎる、独参をさせてほしい、あるいは、分科会にしないで全員に聞かせてほしい、休憩が少ない、参加者同志が話し合う時間がほしい等々が参加者の中からきかれたし、実行委員会内でも、予算面のこと、スタッフのこと等問題点はあったようである。その点に度なしえたものと自負している。遅々としてであって企画し実施されるという青年会の特色が生かされた結果であろう。必ずやその評価はめぐりきたるものと信じている。

実行委員長の言を待つまでもなく、禅のつどい運動は派手さはないが、重要であることは誰もが認めることである。

今回の禅文化学林の第一日目の裏石で、参加している婦人が隣の婦人に「こんなに厳しいなんて、こうなっちゃかったねぇ」と語りかける。それを目がけて指導者の叱声が飛ぶ。「これじゃ、ごはんがのどを通りそうにもないわ」。…こうした参加者に対して、最後は「来てよかったわぁ」「もう一日ぐらいいたいわぁ」といわせるのが、青年会が主催する禅文化学林である。

と、ある実行委員が話していたが、最終日の一五日その声は確かに聞かれた。派手さは確かにないが、全青青の存在を知らしめた貴重な三日間であった。

今回の主な役員は次の通り、

第二回禅文化学林

実行委員会
会長　佐藤泰俊
実行委員長　菊池裕光
事務局長　南　敬爾
会計　桜井孝順
渉外(主)　山内光昭
進行(主)　松倉紘洋
研修(主)　峯岸秀哉
会場　大山義朗
　　岡部康喜
　　福垣合由
　　尼僧団
　　桜井文雄
　　稲垣徹雄
　　小島泰道
　　佐野令彬
参禅(主)　高橋定中
　　菴　正裕
食事(主)　桜井孝順
　　田伏立志
食事　大石英和
作務　栖川敬道
　　広　見義
　　佐藤和二
講師　井川悦道
庶務　谷地元清芳
　　深沢信善

昭和55年度総会予告

日時　五月二十九日・三十日
場所　宗務庁研修道場
仝　5月29日午前十時理事会
仝　5月30日午前十時評議員会
仝　春期禅の集い中央研修会
仝　午後一時より総会

今回の開催にあたり、各位の御協力に深く感謝申し上げなければなりません。参加された方々がどのような意見を持っているかということに深いものがあります。アンケートを集計中ですのでその結果を見て今後の方針を決めたい。ただし、坐禅一本やりという禅文化学林であってはならないし、お茶なに厳しいなんて、こうなるのでもないと思う。

実行委員会のスタッフについては、当然研修委員会だけではできうるものではないので、会場に近い評議員、理事に参画をお願いした。今回、実行委員会を事務局部局といわゆる研修部局に分けて組織し研修部局は、予算、経費については、頭をつかわず、ただ禅文化学林をいかに有意義なものにするかということにのみ力を注いでもらうことにした。その点、事務局長をお願いした南部には労を多くしたの。そして事務局部門には、渉外として、大本山遠忌局の山内光昭主事、教務主事の松倉紘洋師を配置、共に前回総持寺会場にて、研修委員長、事務局長をしたあったので、遠忌直前の大本山でありながら、会場を最大限に使用させていただくことができた。大本山の関係する各係に感謝するところの開催ということである。

年度末の開催ということについては、反省を要することであるが、一方、遠忌直前に団参が少ない時期の永平寺ということもあって、かえって禅文化学林独自の日程が組めたということもできる。

いずれこの禅文化学林が大成功であったと私の立場からはまだいえないが、全青青の活動の中心である禅のつどい運動の推進は今年度なしえたものと自負している。遅々としてであって本体性をもち、自らの手で企画し実施されるという青年会の特色が生かされた結

随喜録

続に対する四代目の時代を迎えつゝある宗門での現状です。師資二面裂破による徒弟教育は後退し、家庭的な雰囲気の中で曹青の殆どが成人しています。

宗乗や行持等は宗門の学校や僧堂生活によって学びましたマ。しかし、在家僧とも言える現在の寺院生活では、それらがどれだけ役立っているのだろう？

逆に、意識の上では出世間でありながら現実の生活は在俗と全く同様であることに悩まされるのです。只管打坐とか禅戒一如を対機の中では充分に活かせないジレンマがあります▽しかも不幸なことに葬祭を中心とする現状では、対機も宗乗を求めてはおらずむしろ、墓相とか方位等を知っている方が役立ち、檀信徒の護持には宗乗や坐禅三昧などは邪魔なのか？▽ならば大学や僧堂で学んだ仏教と現今生活での仏教とは斯くも違うのでしょうか？…寺院生活の中で、師僧と弟子とが肌と肌触れ合いながら体得した仏教ならばそのような矛盾はおこらないでしょう。が、一般家庭と何ら同じ生活を営んでいる昨今では、父親が急に出家の禅僧になるなど望むべくもないのです▽仏教は我見や我執を捨てることが全てであり宗乗を振りかざし禅語を云々するよりも、我見を捨て作業としての利他行という仏教信者の出発点を大事にしたいものです▽全国の曹青を動員してのカンボジア難民の救済運動が展開されています。自分の内面を見詰めるためにも今や、是が非でも協力したいものです。

〈青樹〉

▽今や、肉系化

清水建設
社長　野地紀一
本社　東京都中央区京橋2丁目16—1
支店　名古屋・大阪・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌
仙台支店　常務取締役支店長　石井泰男
仙台市木町通り1丁目4—7

曹洞宗青年会　永平寺二祖国師七百回大遠忌奉讃事業

○全国一斉托鉢運動
○(全会員)写経運動
○大遠忌法要奉修と交響曲「永平寺の四季」発表会

○全国一斉托鉢運動

我々自身の如法で一途な行動そのものが大衆教化の接点であり、二祖国師への報恩行であるとの自覚にたって托鉢を行じその浄財と我々の布施行をもって社会福祉に寄与せんとする。

○「ありがとうあなたの愛と真心を」をキャッチフレーズに既に配布済ののぼりとちらし、さらに地元でおつくりいただきたい「東南アジア難民救済、交通遺児救済、托鉢」ののぼりをもって如法な托鉢をする。

○実施期日

原則としては、秋の大遠忌円成までを一一応のメドとしておりますが、特に四月、五月を托鉢月間とし、特に四月八日（仏降誕会）五月十三日（二祖国師正当法要日）を目標に計画いただきたい。

（団参等の都合もありましょうから、その点適宜御検討いただきたい。

又、一青年会で三回前後、会員全員の参加を呼びかけていただきたいと思います。

○浄財目標

・一青年会五万円前後を目標として、実施経費を引いて（又、経費必要なしとする会は全額）振替して本部に御送金いただく。

・さらに送付済の会員個人への振替用紙による個人寄付金、会としての寄付金、さらに会員の各寺への浄財箱等の設置をもお勧め願いたい。

・青年会員による托鉢月間（例えば、財団法人交通遺児育英会）

○ちらし、のぼり等さらに必要あれば本部事務局へ御請求下さい。

以上、諸浄財合せて三百万円以上を目標としております。

○寄付先

・難民救済金＝曹洞宗東南アジア難民救済会議を通じて（この会議には青年会々長以下役員が参加しており、長期的に寄付、ボランティア活動を意図している。

・交通遺児救済金＝全国組織の団体を通じて

いい。

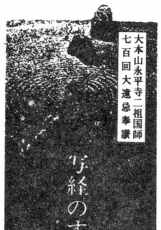
○写経運動の展開

ともすれば寺より檀信徒へという一方通行の教化の多い中で写経会は檀信徒よりの能動的参加によって成り立つものであるという点に於てもぐれた教化事業であると思います。

そこで、今回の写経運動を定期的写経会開催（第一歩としてとらへていただき、全会員の写経会開催お勧めしたいのです。

そのため単に個人的に写経を依頼して集めるのでなく、会員お互いがそれぞれ随喜し合って、写経会のいろいろなもち方、写経の仕方等を学び合っていただきたい。

そこで得たものを護



永平寺二祖国師大遠忌奉讃記念事業要項

（遠忌中、人を配してコーナーをもうけ、奉納と引換へに写経用紙を渡す）

・禅のつどいに写経をとり入れる。↓

五、○○○枚

（夏の禅のつどいに写経の時間をとり入れて参加者に写経し奉納していただく）

この為に春の禅のつどいは中央研修会に写経という訳ではない。別日を設定する時は年中行事等に因んで行うと良いと思います。）

○写経奉納目標　三万枚

・一会員につき二〇枚前

一、○○○人×二〇枚

＝二〇、○○○枚

・永平寺に写経配布、受付コーナーの設置↓

五、○○○枚

(2)三○○円＝寄付金

(3)一○○円＝納経塔建立資金

(4)三○○円＝実施会場費（又は地方費青活動費金）

○托鉢と同じく四月・五月の催

○全会員による写経会の開

(1)について

写経用紙は本部で作製し、評議員より必要部数の連絡を受けて発送し、評議員より各会員に配布する。評議員各位は地方と本部とのパイプ役となっていただき必要部数の連絡、写経済枚数、送金額等を月に一度ほど集計し報告願いたい。

振替用紙、報告用紙等は本部より送付する。

又、写経会は継続してゆくことを目的としているので写経会のいろいろな持ち方等の指南書等の資料を作製し提供してゆく。

(2)寄付金は、托鉢浄財と合わせて九月の大会までに配布の剰余金を検討し、決定する。

(3)納経塔建立資金とは、現在、写経会が各地で行われているも確たる納経場所がないことを思い将来両大本山へ納経塔建立を提案し、いざ建立となった時の基金プールとなった。

当分の間、青年会の写経は永平寺経蔵にて納める。

(4)の三○○円は、地元実施団体、会場等の経費として利用いただく、その利用はそれぞれお

まかせする。

すなわち、一、○○○円の奉納金のうち七○○円を本部に送金いただきたい。

以上、托鉢、写経とも実際に行っていただかねば目的は全ったく達せられぬものであります。よろしく広く地元青年会会員各位と御検討下さって、

五十五年度行事のレールにのせていただきたいと思います。

既に托鉢ののぼり、ちらしが送付されるや直ちに托鉢を実施され、浄財を送金いただいている会も数団体あり、心強い仕

第です。

○懺悔文

我昔所造諸悪業　皆由無始貪瞋痴
従身口意之所生　一切我今皆懺悔

○三帰礼文

自帰依仏　当願衆生　体解大道　発無上意
自帰依法　当願衆生　深入経蔵　智慧如海
自帰依僧　当願衆生　統理大衆　一切無礙

摩訶般若波羅蜜多心経

観自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄舎利子色不異空空不異色色即是空空即是色受想行識亦復如是舎利子是諸法空相不生不滅不垢不浄不増不減是故空中無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色声香味触法無眼界乃至無意識界無無明亦無無明尽乃至無老死亦無老死尽無苦集滅道無智亦無得以無所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟涅槃三世諸仏依般若波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等呪能除一切苦真実不虚故説般若波羅蜜多呪即説呪曰

羯諦羯諦　波羅羯諦　波羅僧羯諦
菩提薩婆訶

般若心経

○大遠忌法要奉修と「永平寺の四季」発表会

大遠忌に向けての青年会のエネルギーを托鉢、写経で盛り上げ結集し、大遠忌の最終をしめくくる青年大会を本山と福井に於て行う。

青年宗侶のロマンを音楽に求め作曲家・黛敏郎氏に托し交響曲「永平寺の四季」として福井市文化会館に於て発表コンサートを行い、レコードに残して奉納する。

○昭和五十五年九月十六日

当日午前、青年会員こぞって永平寺に結集し、写経奉納をかねて大遠忌法要を厳修する。

終って夕刻、文化会館に於て浄財の伝達、発表コンサートを行う。

○発表会は青年会、永平寺奉賛会、地元福井市等との共催の形で行う。

○地元永平寺奉賛会、福井市文芸協会によって、入場券の配布、コンサートの諸準備の協力の約束は既に話し合いがついている。

○交響曲「永平寺の四季」

・作曲　黛　敏郎

・作詩　藤田敏男

・演奏　東京交響楽団

・合唱　日本プロ合唱団

・他にソリスト二名、ナレーター一名

○当日演奏曲目は他に黛敏郎作曲「涅槃交響曲」

○当日演奏、録音関係者総員二〇九名

純粋寄付とし、他の目的に使わないとの強い実行委員会の要望によるものである。

○レコード化について

当日のコンサートを同時に録音し、レコード化（五、○○○枚）し記念限定レコードとして、奉賛の意を含めて一枚五、○○○円程度のものとし、これを買上げていただくことによって発表コンサート、レコード化の経費の大部分をまかなうものとする。このような、いささか無理な計画をするのは今回の行事の趣志から托鉢、写経の浄財は使わないとの強い実行委員会の要望によるものである。

○レコード化について

当日午前、青年会員こぞって永平寺に結集し、写経奉納をかねて大遠忌法要を厳修する。

終って夕刻、文化会館に於て浄財の伝達、発表コンサートを行う。

○発表会は青年会、永平寺奉賛会、地元福井市等との共催の形で行う。

○地元永平寺奉賛会、福井市文芸協会によって、入場券の配布、コンサートの諸準備の協力の約束は既に話し合いがついている。

○昭和五十五年九月十六日

托鉢，写経関係予算

収入		支出	
遠忌局助成金	500,000	福祉寄付金	9,000,000
写経奉納料2万×700円	14,000,000	写経用材，托鉢経費	5,500,000
（2万枚奉納として予算化）		納経塔建立資金	2,000,000
托鉢浄財	3,000,000	諸雑費	1,000,000
計	17,500,000		17,500,000

「永平寺の四季」発表会，レコード化予算

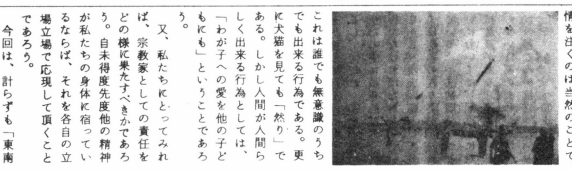
収入		支出	
遠忌局助成金	2,000,000	交響楽団　105名	2,410,000
入場料1300人×3000円	3,900,000	合唱団　80名	2,360,000
レコード売上げ5000円×4000枚	20,000,000	指揮者	500,000
（当座の目標枚数）		独唱者　2名	600,000
特志，コマーシャルその他	1,165,480	ナレーター	300,000
		写譜料	700,000
		作曲料	4,000,000
		作詩料	1,000,000
		レコード化演奏料割増30％	1,248,000
		レコード製作費5000枚	2,242,500
		普通ジャケット	
		録音費	1,220,000
		旅費　宿泊費	6,206,300
		事務所経費10％	2,278,680
		準備諸経費	2,000,000
計	27,065,480	計	27,065,480

真夏の空にも凧は舞う

カンボジア難民キャンプに入って
新しい段階をむかえた救援活動

三十度という真夏のような真温の中、カンボディアの難民キャンプの一つであるサケオに入ったのが、昨年暮の十二月二十三日。医薬品、子ども連用のキャンデー等を二百万円程を持参して、日本医療班の到着に備えた。キャンプ内では、私たちの想像を絶する悲惨さに目をそむけることがしばしばあったが、その中で救われたのが、子ども達の笑顔や元気に遊んでいる姿であった。それは、正月に近づくと日本でも良く見る光景の一つ、凧上げである。凧は、穀物の入っていた袋紙でも利用したのであろう。そして糸はといえば、身辺の不要になったものをつなぎ合わせたもので、お粗末この上ない「代物」であったが、ちゃんと真夏のような空に上がっている。ふっと日本の子ども達が、千円前後のビニール製のグリラカイトを北風に吹かれて凧上げをしている姿を思い浮かべ、正に天国と地獄の表現が当てはまるような環境の相違であった。

昨年は、「わが子への愛を他の子どもにも」と国際児童年に広く呼びかけられた。親が自分の子どもに愛情を注ぐのは当然のことで、



これは誰でも無意識のうちでも出来る行為である。更に犬猫を見ても「然り」である。しかし人間が人間らしく出来る行為としては、「わが子への愛を他の子どもにも」ということであろう。

又、私たちにとってみれば、宗教家としての責任をどの様に果たすべきかであろう。自未得度先度他の精神が私たちの身体に宿っているならば、それを各自の立場立場で応現して頂くことであろう。

今回は、計らずも「東南アジア難民救済会議」というものが各位の自発的な好意によって誕生した。画期的な出来事である。私たちは、この会議が曹洞宗門にとって、エポック・メーキングになるか否かの大切な時点に立っていると思う。この精神が将来ともに生かされるならば宗門にとって前途は、明るい光明に導かれるであろうと確信を抱いている。

曹洞宗東南アジア難民救済会議の任務は将来的にも山積されている。この中で、全国曹洞宗青年会がなし得る任務も重大な要素をもっているし、又、私たち全曹青会員でなければ出来ないボランティア活動も沢山ある。

長い戦火の中を逃げまどいながらの生活で幼い子どもを通も、精神的には大きな心の傷を受けている。彼らに精神的に立ち直ってもらう援助をしなければならない。そして東南アジアの子ども達と日本の子ども達との精神的な交流を深め、宗門内にもボランティア精神の普及と確立を早急に行う責任があろう。その捨て石になるのが全曹青たる所以ではなかろうか。

二月十六日旧正月を前にして「テト」の攻撃が盛んしまったとの情報も入っている。雨期に入る前に支援活動を充分にしておかないと、病弱の人たちの生命が不安である。

戦後の日本は、めざましい発展をとげ、経済大国の仲間入りをした。しかし、戦後の食糧難の間には、インドシナ半島の人々に「外米」を送ってもらった気慢もあろう。「困っている時はお互様」の気持がない限り、人が住むには住みにくい。日本が国際世論でいつも問題にされいろるのは「互助」の精神が一歩足らないからであろう。

日本に帰ってきて、グリラカイトを夢中で上げているわが子を見て、複雑な思いを抱いている現状である。

今後全曹青が出来得る

ボランティア活動

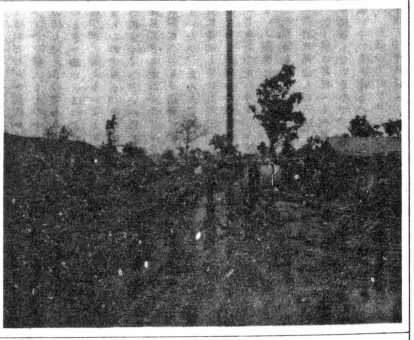
二子ども達への保育指導

例　ゲーム・スポーツ等

を通じて

三移動図書車によるキャンプ内外の交流

佐藤　泰淳



難民救済義援金寄託者芳名録

滋賀　村瀬信行
愛知　富尾智恵
広島　横山正賢
神奈川　安藤実英
群馬　峯岸秀哉
大分　平岡正堂
山口　谷地元清学
京都　大山義朗
新潟　石田了丁
山口　谷地元清学
静岡　浅香清志
山口　谷地元清学
静岡　赤堀興斉
福井　水井智海
静岡　大村正順
群馬　塙山泰学
三重　堀井宏憲
山口（興元寺）金子善広
秋田　下鍋倉保育所一同
長野　斉藤泰全
岩手　三宅俊禅
兵庫　宮崎和朗
宮城　千田豊穂
静岡　桜井孝順
静岡　第三宗務所青年会
福島　鷲嶽寛道
愛知　山崎直哉
岐阜　池田明雄
山口　村上徹山
山形　毛利成子
茨城　山田栄一
愛知　片岡文雄
茨城　日立市精神薄弱者育成会
愛知　明庭龍童
東京　長光寺
岐阜　水野親弘
愛知　増福寺、佐藤貫太
広島　広島県第一青年会
愛知　別府良孝
高知　鳳彩寺（金剛鈴州）
佐賀　妙音寺（向隆光）
熊本　下川忠永厚
東京　長谷寺一別院
秋田　佐々木征満
山形　秋場祐三
福島　野崎孝宗
秋田　佐藤廣俊
山形　奥山徳行
岐阜　佐藤大用
北海道　田村保治
山形　鈴木昭雄
山形　蓬莱院内置賜地区青年会
東京　長尾龍心
福島　吉岡棟憲
兵庫　黒田教道
山口　山本康道
静岡　石河蛾年
三重　市河雄峰
宮城　酒井勝禅
山形　安野重幸
山形　松田英敏
山形　伊藤直俊
愛知　愛三曹青会
愛知　佐野令彬
愛知　松秀寺観音講
（敬称略、二月二十一日現在）
岩手　高屋行継
千葉　松本力也
長崎　遙山正徳
熊本　隣峰寺寒行会、下川
愛媛　愛媛青年会第三教区
愛知　若山玄芳
福井　石塚良光
鹿児島　飯尾寛治
福井　小川清司
静岡　阪野全治
愛知　長田禅苗
埼玉　金剛秀房
愛知　井下善男
静岡　白鷺洲孔靖
山形　矢萩作廣
鹿児島　冨永国敏
岐阜　岩水竜峰
高知　上田秀成
高知　山田俊幸
静岡　近藤浩敏
愛知　横井堂雄
三重　井尻嗣生
山形　秋場泰隆
山形　鮭延乗童
宮城　佐藤祐光
愛知　鈴木正教
岐阜　山守成修
愛知　泉沢泰成
山形　原田雅道
北海道　前谷光昭
静岡　佐賀妙音寺（向隆光）
愛知　伊串昇頌
愛知　石田一正
愛知　第二、第三教区一同
愛知　細川昭芳
三重　山本哲成
新潟　清入寺
兵庫　小林道雄
岡山　正衆寺
愛知　矢内健之
福島　新井正道
群馬　鈴木昭雄
愛知　井上義臣
青森　盛雲院
岐阜　杉崎乗信
岐阜　杉崎良憲
岐阜　高橋定申
新潟　田中良盛
愛知　加藤宏道
千葉　田中成章
福島　遠藤龍弘
東京　上杉憲孝
静岡　鏡島元昭
山口　石井祐光
北海道　木村清韶
山形　佐藤文雄
宮城　内藤栄一

猪苗代湖を一望に眺める
表磐梯高原の開発

株式会社　磐梯ヴィラ

取締役社長　中村太事
取締役専務　鈴木栄一

東京都新宿区愛住町20番地
TEL. 03-353-8191

日本建築家協会会員
株式会社　真島建築設計事務所

代表取締役1級建築士
真島　隆

〒151 渋谷区笹塚1-47-2-415
TEL 03-460-6528代
長野分室—長野市大字西和田三重南352-5
TEL 0262-44-7770

《禅のつどい運動の反省と展開》
—KJ法の研修会で得たものから—

Ⓐ宮城県のばあい…

今まで数回となく、禅のつどいを敢行する試みが宗務所主催で行われ、若き宗侶の教化者育成を目指しながら五〇人からの協力スタッフで華々しくスタート、数年後に若き宗侶の育成もほぼ達成できた。それがため、①自分自身も教区でやりたいという気持になり、意欲的に教区でやるようになった〉ことがそれぞれに述べられている。また五〇人もの人数では、配役上、だぶつく傾向が多かったが教区に移行されることにより問題も解消され、積極的に活動されるようになった。そのことは、②角田時代、役不足のように見られた点が、数年後教区主催に移行すると末端の者にも役立つようになった〉という例にも現されている。このように初期の禅のつどいに参加し研修した事が、教区の教化者育成に役立ち、むしろ意欲的に取り組んで行けるようになったとしている。

Ⓑ試行錯誤の中から

ところで、草創期以来を顧て、ある人は、〈③十年を振り返って、初めの三年は無知の熱心さ、中の三年はなんとなく、後の三年は何んとかしなければの前向きの気持ちでいる〉と已を空しくその過程を反省している。しかし、〈④途中参加の人は、配役の与えられるままの傾向があるので、自分が今、何をなし、何のためにしているのか見えなくなっている〉という現象も教区の中で起って来た。すなわち、初回からの者は、自分の行動に深い反省を持ち無中ながら途中まで来たが、その後は惰性行動とまま法主まうとめたが好感を与えた〉事がある。このように熟達した人格の指導者を適切に位置づけ、夫するとともに、配役の人的確保も可能になってくる。その上で、〈⑦コンダクターとしもいうべき総務は事務局内に閉じ込まらず、一般大衆の活動の流れを逐一把握して行く〉べきである。同時に〈⑧参加者の活動の中に積極的に入って行かなければならない。〉しかし、現実問題として多くは総務の在り方が問われている。〈⑨初期禅のつどいにおいては、配役上に対抗意識があり、連係プレイのとこころが目立った〉としている。〈⑩分担で指導するだけでよいのか〉〈⑪配役分担だけでよいのか〉という事を指摘している。また、主催者全員の参画意識がなかせで、スタッフの無関心が非協力に繋がる〉結果になる。〈⑫謝辞を出せば非協力者も参加するのではないか〉という悲観論に反省があるかもしれない。更に問題を残しているのは兼職者の参加協力である。

Ⓒ主催者側の徹底した自己探究

人材起用の問題としては〈⑤深い思慮と知識をもつ老僧方を講師などの依頼をし、活動の位置づけを考える〉事も重大な配慮の一つであろう。例に〈⑥宏幹先生がつどいに僧形服でなく、洋服のまま法衣をつとめたが好感を与えた〉事がある。このように熟達した人格の指導者を適切に位置づけ、工夫するとともに、配役の人的確保も可能になってくる。その上で、〈⑦コンダクターとしもいうべき総務は事務局内に閉じ込まらず、一般大衆の活動の流れを逐一把握して行く〉べきである。同時に〈⑧参加者の活動の中に積極的に入って行かなければならない。〉

〈⑨初期禅のつどいにおいては、配役上に対抗意識があり、連係プレイのとこころが目立った〉としている。〈⑩分担で指導するだけでよいのか〉〈⑪配役分担だけでよいのか〉という事を指摘している。また、主催者全員の参画意識がなかせで、〈⑪禅のつどい馬鹿まかせで、スタッフの無関心が非協力に繋がる〉結果になる。〈⑫謝辞を出せば非協力者も参加するのではないか〉という悲観論に反省があるかもしれない。更に問題を残しているのは兼職者の参加協力である。

Ⓓ兼職者と専従者の協力が必要

〈⑬開催時、教職員の兼職者は学校行事と重なりまた平日には一般公務員などの兼職者が参加できない〉ので、しかし、こうした人たちに宗教者同志の信頼を計り、参画意識をもった組織運営を考えて、総務は日程全体の把握はやむをえない。配役人材起用に充分心すべき事であろう。

Ⓔ運営態勢の充実なくして成功なし

さて、配役が決められた後、主催者スタッフの指導方法が問題とされる。前述の如く、草創から携わっているいわばベテラン者は運営の責任上、総務あるいは講師といった配役につく事が多いため、法務や禅、生活指導に携わるのは、後継者の役となって、参加者と充分な溶け込みができぬまま、行持を進めてしまう傾向にあり、〈⑭参加者から喝物にあり、〈⑮計を見て鳴らすのか指摘された〉り、また、〈⑯中学生対象で、食事の時しゃべってしまうので作法の仕方をどうするか〉といった戸惑いを持つようになって開拓的教化の工夫が必要とされるのだが現代レクリエッション導入もその一つの方法といえるのである。このとき〈㉑レクはつどいの緩和剤と捕える〉ことが望ましいのである。その捕え方によってつどいの目的効果に大きな差異が出てくる。実際に〈㉒レク指導に固っていたが、あらかじめ講習者の指導に熟達した人は、〈㉓子供は常にエネルギーを発散しているので、ただ騒いでいるとは叱るのではなく、発散の方向をコントロールしてやればよい〉と云ってその発散を写生に向けさせ熱中させている例もある。このようにつどいの目的をスムーズに運ぶための緩和剤となるようにレクを扱って行けば違和感も起らないで行われよう。ところが、〈㉓屋内での自由時間に子供がガラスを割って事故処理が悪かった。当方が全部処理したが、当の子供が自分からの反省がなかった。「心を磨く」テーマかの禅のつどいは大衆教化で与えたり、僧堂式の在り方だけでも教化の浸透は望めないのは当然である。そこに開拓的教化の工夫が必要とされるのだが現代レクリエッション導入もその一つの方法といえるのである。このとき〈㉑レクはつどいの緩和剤と捕える〉ことが望ましいのである。その捕え方によってつどいの目的効果に大きな差異が出てくる。実際に〈㉒レク指導に固っていたが、あらかじめ講習者の指導に熟達した人は、〈㉓子供は常にエネルギーを発散しているので、ただ騒いでいるとは叱るのではなく、発散の方向をコントロールしてやればよい〉と云

Ⓕ自然な形で、より有効なつどいの効果を！

禅のつどいは大衆教化で全部処理したが、当の子供が自分からの反省がなかった。「心を磨く」テーマかの禅のつどいを理解せしめ、協力要請するため、学校の責任者に連絡をとると、〈㉗校長自身が共鳴し、夏休みの行事を省いて参加させたい〉という好意的例も多いし、親にしても〈㉘坐禅をするようにしてから子供たちの礼儀が正しくなって参画意識を高めて行く意味で考慮すべき事ではなかろうと思う。最近、みやぎ禅のつどいでは。常設の天真会をもち、僧俗一体の研修をし、自己の向上につとめているが、参加する一般者も喝物から書策巡堂に至るまで出来る限りの配役をし、同修同行をしている。その結果、天真会員の参加のある〈㉞みやぎ禅のつどいでは、礼拝式を取り入れ、共に称仏礼拝し感銘を受けた〉という宗教体験の感動を語っている。

①アフターケアの充実なくして「禅のつどい」運動の進展なし

一般の禅のつどいにおいて、一年一回ですべてが終ろうとする参加者がいるのでは、参加者との縁を何かの形で深めて行く事が大切なのではなかろうか。〈㉟一期一会の縁を敷衍する芽を伸ばしてやることがアフターケアである。今、ここに自覚的に自己の問題として宗教を捕えようとする参加者がいるので、主催者側から捕えた二、三の例を挙げてみよう。〈㊱三教区では郵便局員として、独身者が毎年参加してくれ、他の参加者の中に溶け込んで、リーダーとなってくれるので事務局が助かる。〈㊲山小屋の管理人が参加してくれているが、生活行動を一緒にしてくれ好感がもてた。彼は人間性がすばらしい。〈㊳主催者側の参画意識の問題を反省すべきである。

最後に上述のすべてを含め、主催者自身の問題を反省すべきである。

②アフターケアとして単なる懇親会でオブラートに包んだようなごまかしの反省会となってはいないか〉という批判に耳を傾け、厳しい自己反省をしてゆかねば発展的禅のつどいはなされないともいえる。

主催者の良き協力者となる人を育てあげる事はつどいを盛り上げる大きな原動力となる。また、主催者側の配役に医療班として一般公開に参加している。〈㊴今後何らかの手を打たなければならない〉施策を真剣に見出すべきである。

最後に上述のすべてを含め、主催者自身の問題を反省すべきである。

③主催者側のアフターケアとして単なる懇親会でオブラートに包んだようなごまかしの反省会となってはいないか〉という批判に耳を傾け、厳しい自己反省をしてゆかねば発展的禅のつどいはなされないともいえる。

曹洞宗通信講座

曹洞宗教学研究所編　A5判　全4巻　定価26,000円

曹洞宗教師必携石碑の宗教解説書——曹洞宗を代表する碩学により釈尊伝に始まり清規、眼蔵その他、曹洞宗必須の親切な宗義解説書である。

曹洞宗布教指導叢書

曹洞宗教学研究所編　A5判　全4巻　定価14,500円

曹洞宗布教・教化の実践指導書——曹洞宗布教・教化の第一線の執筆陣による布教・教化に関する凡ゆる方面についての親切な指導書である。

和訳従容録（和綴本）

曹洞宗宗学研究所編　A5判　全4巻　定価29,000円

提唱の講本用、儀式用（結制として大好評）——各則ごとの示衆・本則（頌）漢文と読み下し文とを並記。結制記念になるべく受業師・法堂師本師・首座の記入欄を付す。

懸林陪堂監修　秋入　定価14,500円

従容録講話

秋野孝道著　A5判　定価12,500円

定評ある親切な講義——「平談俗話、以て玄旨妙路を明にし禅師の題著は、全くここに傾け尽されたと言ってよいほどの不朽の大著である。」高島米峰師の序より

参同契・宝鏡三昧講話

秋野孝道・高島米峰著　A5判　定価3,800円

名師ごとの講話である為、法事等の小時間法話にも活用できる。

近刊書案内

仏説父母恩重経

本庄は大本山永平寺二祖懐奘禅師七百回大遠忌に正当し、二代様の『孝順心』に思いを馳せる時、一代様の中の説教が大なる契機となっていることを知ります。出家者としての『父母の報恩』と、眞実の孝道、を自己の現実的宗教理論として、人間として、人生の生き方を示されていきたい。二代様を仏教的生活に導き、眞実の出家道を教誡してくれた母の恩が高祖様へと向けられていたのでありましょう。聖師を問わず、父母の恩の重き事をこの経巻に感得していただき、また教化の一助として為る寺院様を通じ檀信徒様用施本となるべく刊行いたします。　合掌

体裁　新書判
本文　大きい文字（28級特大明朝体）を使用、漢字には平仮名を付す。
刊行　昭和五十五年四月上旬予定
施本用、什物用として
500巻以上にて寺写入手承ります。（費用は実費申受けます）

—基本仏典の拡充—

頒布のしおり
○全巻先渡し
○基本後平振替払
○高額書類分割有

三宝書院
中野郵便局私書箱62号
〒164 ☎(03)384-4445
振替・東京6-122534番

曹洞宗通信講座

曹洞宗布教指導叢書

曹洞宗布教・教化の実践指導書

和訳従容録（和綴本）

従容録講話

参同契・宝鏡三昧講話

仏説父母恩重経

頒布のしおり
○全巻先渡し
○基本後平振替払
○高額書類分割有

三宝書院
中野郵便局私書箱62号
〒164 ☎(03)384-4445
振替・東京6-122534番